

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立視覚特別支援学校

活動の実際（単元名）

7月 視覚障害の理解啓発 12月 スポーツ交流と防災に関する共同学習
1月 交流する高等学校の震災メモリアル行事への参加

指導目標

交流及び共同学習で、同世代の生徒と交流し学校の紹介や視覚障害の話进行交流相手高校の生徒に伝えるなどコミュニケーション能力の向上を図り自信を持たせる。

生徒の実態

視覚障害があるために積極的に人と関わりコミュニケーションを取ろうとする意欲があまりない。経験の不足が原因だと思われる。多くの経験をして成功体験を増やしていけば人との関わりやすさやすばらしさが実感できると思う。

事前学習

- ・総合的な学習の時間で、災害時に視覚障害者がどのようにすれば援助してもらえるか等の学習や話し合いを行った。
- ・フロアバレーボールの人の動きについて分かりやすく伝える方法を話し合った。

学習活動（具体的な取組）

- ・フロアバレーボールでの交流（12月）
- ・防災に関する研究協議（12月）
- ・震災セレモニーでの分科会講師（1月）

支援と留意点

- ・交流校に説明をすることばをわかりやすくする方法を職員と一緒に考えた。うまく伝わるかという不安を感じさせないように留意した。
- ・交流校との協議でとにかく何かひとつでも発表できるように助言した。
- ・学校の紹介や視覚障害者が参加できるパラリンピック競技に関して調べ学習を行い自信を持って発表できるように十分練習した。

評価

生徒がお互いに得意な分野で力をだし、お互いを認め合う雰囲気のできたことで、交流する楽しさがより大きくなった。職員の手助けもかなり少なくなり生徒自身の活動が増えた。時間の制約もあるが、もう少し深めていけばさらに良い結果が得られるかもしれない。

活動の様子



チームに分かれてフロアバレーボールの交流試合



台風被害の避難についての研究協議

事後学習

- ・感想文を基にでた意見を集約し発表しあった。積極的に交流できたかどうかを友人同士で話し合った。
- ・「なぜ避難がおくれるのか」という協議で、出た意見を集約し再度話し合った。

成果と課題

障害があるので同年代の生徒との交流も今まで遠慮がちであったが、交流相手高校の生徒が積極的に話しかけてくれたため、楽しく話ができるようになってきた。同世代での交流の良い面がでてきたようである。コミュニケーション力も向上し、他校に出かけて学校紹介をしたことで自信も出てきた。課題は授業時間の確保が求められる中で、交流及び共同学習の時間をどのように確保していくかである。